

問題1 次は、警備業の歴史・意義と重要性についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 現在では「生活安全産業」として、国民生活に深く定着している。
- ② 社会構造の複雑化、治安情勢の深刻化等により、国民の自主防犯活動が活発化している。
- ③ 高度成長期における企業の合理化と人手不足の時代を背景として、各分野で急速に発達した。
- ④ 「警備業務」とは、人の生命、身体、財産等に対する危害の発生を警戒し、防止する業務であることから、必ずしも他人の需要に応じて行う必要はない。
- ⑤ 昭和39年に開催された東京オリンピック選手村の警備によって、その存在を広く認識された。

問題2 次は、警備員の指導及び教育に関する制度についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備業法第21条では、警備業者及び警備員に対し、警備業務に関する知識及び能力の向上に努める義務があることを定めている。
- ② 警備業者は、その警備員に対し、専門的な教育を行う義務がある。
- ③ 警備員教育については、警備業法施行規則第38条に警備業務の区分に応じて行う教育事項や教育時間数等が定められている。
- ④ 警備業者は、その警備員に対し、必要な指導及び監督を行う義務までは求められていない。
- ⑤ 教育時間数については、教育を受ける者の警備業務の従事経験や警備員検定等の資格保有状況によって減免される。

問題3 次は、現在、検定が行われている種別を挙げたが、誤りはどれか。

- ① 保安警備業務
- ② 核燃料物質等危険物運搬警備業務
- ③ 雑踏警備業務
- ④ 交通誘導警備業務
- ⑤ 空港保安警備業務

問題4 次は、警備業法の目的及び定義についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 「警備業務」とは、警備業法第2条第1項第1号から4号に該当する業務であって、他人の需要に応じて行うものをいう。
- ② 交通誘導警備業務は、いわゆる第2号の警備業務である。
- ③ 警備業法は、警備業務の適正な実施を図ることを目的としている。
- ④ 貸ビル業者が、通常必要とされる範囲で自己の所有建物において、建物自体の保安全管理を行う業務は、警備業務に該当する。
- ⑤ 「警備員」とは、警備業者の使用人その他の従業者で警備業務に従事するものをいう。

問題5 次は、基本的人権についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 「基本的人権」とは、抽象的には人間が生まれながらにして持っていると考えられる権利、人間が人間として生活していくうえにおいて、当然認められるべき基本的権利のことである。
- ② 警備業務の実施の過程において、他人の権利や自由を侵害することのないよう基本的人権を正しく認識する。
- ③ 憲法第13条では、憲法が個人尊重主義を採用し、生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利が、立法その他の国政のうえにおいて最大の制限を受けるという基本方針を明らかにしている。
- ④ 基本的人権は、絶対無制限ではなく、「公共の福祉に反しない限り」という制約がある。
- ⑤ 公共の福祉による制約の程度は、それぞれ自由及び権利の性格によって異なっている。

問題6 次は、刑法の正当防衛と緊急避難についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 正当防衛では、急迫不正の侵害に対して、自己又は他人の権利を防衛するためにやむを得ずにした行為は、罰しないとされている。
- ② 緊急避難では、自己又は他人の生命、身体、自由又は財産に対する現在の危難を避けるため、やむを得ずにした行為は、これによって生じた害が避けようとした害の程度を超えなかった場合に限り、罰しないとされている。
- ③ 緊急避難は、正当防衛と同じように、危難にひんする権利を救うためにする行為が許される場合の一つである。
- ④ 正当防衛は、緊急避難の場合に比べて要件が厳格になっている。
- ⑤ 過剰防衛及び過剰避難は、刑罰の対象となり、情状によりその刑を減軽又は免除されるに過ぎない。

問題7 次は、遺失物法の用語の定義についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 遺失物法の対象となる「物件」には、遺失物及び埋蔵物並びに準遺失物をいう。
- ② 「遺失物」とは、他人が占有していた物であって、当該他人の意思に基づかず、当該他人が占有を失ったもので、奪取された物も含む。
- ③ 「準遺失物」とは、誤って占有した他人の物、他人の置き去った物及び逸走した家畜をいう。
- ④ 「埋蔵物」とは、他人が占有していた物であって、土地その他の物の中に包蔵されている物件で、その所有者が何人であるかが容易に識別できないものをいう。
- ⑤ 「遺失者」とは、物件の占有をしていた者をいい、当該物件の所有者のほか、物件を預かっていた者及び使用していた者等も含む。

問題8 次は、道路交通法第2条の定義についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 「駐車」とは、車両等が継続的に停止すること又は運転者がその車両等を離れて直ちに運転することができない状態にあることをいう。
- ② 「停車」とは、駐車以外の車両の停止をいい、具体的には、人の乗降のための停止などがある。
- ③ 「徐行」とは、ブレーキを操作してから1メートル以内に停止することができる速度をいう。
- ④ タクシー等が、客待ちのために停止している状態は、運転者が乗車していれば駐車とはならない。
- ⑤ 一般に制動装置の十分整備された普通自動車を乾燥した路面で運転する場合、時速8キロメートルないし10キロメートル程度以下で進行することを徐行という。

問題9 次は、道路交通法第36条、第37条の交差点における他の車両等との関係等についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 交差点において右折しようとする車両等は、交差点に入った時点の前後を問わず、その交差点において直進し、又は左折しようとする車両等の進行妨害をしてはならない。
- ② 「交通整理が行われていない交差点」とは、信号機の表示する信号、警察官等の手信号等による交通整理が行われていない交差点のことをいう。
- ③ 路面電車は、左方から進行してくる他の路面電車の進行妨害をしてはならない。
- ④ 優先道路以外の道路を進行している車両は、交差する道路が優先道路であるとき、又は道路の幅員が明らかに広いときは、その交差道路を通行する車両の進行妨害をしてはならない。
- ⑤ 車両は、路面電車及び右方から進行してくる車両の進行妨害をしてはならない。

問題 1 0 次は、交通誘導警備業務用資機材の使用用途及び機能についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① クッションドラムは、中に水袋又は砂袋が入っており、縦方向に厚く設置することによって、車両等の衝突時の衝撃を緩和することができる。
- ② 誘導ロボットは、主に高速自動車国道等で、通行車両に対し停止、進行を促すものとして使用され、規制帯起点側の導流帯の中間地点付近に設置される。
- ③ 車線規制用標識車両は、車両に対し、工事に伴う規制帯の明示や車線変更等を促すことを目的として使用するもので、規制帯起点側の導流帯の終了地点付近に設置される。
- ④ 回転灯は、車両に対し車線規制が行われていることを知らせ、注意を促すことを目的として使用されるもので、一般的に黄色の回転灯が使用されているが、高速自動車国道等では赤色系で大型の回転警告灯を使用することがある。
- ⑤ 工事用信号機は、公安委員会が法令によって設置するものとは異なり、道路工事等の施工業者がより安全を期すために任意に設置するものである。

問題 1 1 次は、車線規制時の保安用資機材の設置要領についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 「工事中」等の各種標示板は、工事区間の起点と終点に設置する。
- ② 保安用資機材の設置は、通行する車両の進行方向（起点）から始め、撤去する場合は、進行方向の逆の地点（終点）から行う。
- ③ 交通流に対面する起点側の保安用資機材と中央線との角度は、車両の安全な通行を確保するため、おおむね15度から30度となるように設置する。
- ④ 交通流に対面する起点側の保安用資機材は、適当な間隔を空けて配列し、対面しない側（中央線上等）の保安用資機材は、隙間なく並べて仕切る。
- ⑤ 「工事予告」標示板は、原則として、工事現場の手前100メートルから1,000メートルの道路上の左側に設置する。

問題 1 2 次は、合図実施上の具体的留意事項についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 走行中の車両の前面に出て停止を求めることは、極めて危険なので絶対に行わない。
- ② 一般車両に停止を求める場合には、道路の右側に沿って停止できるようにする。
- ③ 停止の合図は、特にゆとりを持ってはっきりと行う。また、悪天候の下で停止を求める場合は、車両の制動距離に留意する。
- ④ 停止した車両に進行を促す場合は、他の交通の状況を見て、安全を確認した後に発進させる。
- ⑤ 道路を規制した場合は、道路の狭い部分に入る手前で十分に速度を落とすよう、徐行を促す。

問題 1 3 次は、合図の方法についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 手旗は、一般道路において昼間の雨の降っているときに使用されることが多い。
- ② 誘導灯は、主に夜間や降雨時に使用するが、地域によっては昼間に使用する場合もある。
- ③ 誘導灯による合図の方法は、一本の誘導灯で赤旗、白旗の両方の役目をさせるため、持ち替えたり、反対の素手によって合図の補足をしたりする必要がある。
- ④ 素手による合図は、歩行者誘導や駐車場等で多く行われており、誘導灯等の資機材を使用した合図の補足等で行う場合が多くある。
- ⑤ 大旗は、主に高速自動車国道等の車両に対し、明確に合図を伝えるために使用する。

問題 1 4 次は、合図実施のための位置の選定についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備員の存在が交通の妨害とならず機敏に動くことができ、通行する車両による危険を避けることができる位置で行う。
- ② 現場は、足元が不安定な場所が多いため、転倒等によって受傷することのないように安全な位置で行う。
- ③ 原則として、道路工事のために設けられた保安柵の内側又は道路の左側（歩道が設けられている道路にあっては歩道上）で行う。
- ④ 歩行者や車両から警備員自身の存在が確認できなくても、警備員から周辺の交通状況を見渡すことができる位置で行う。
- ⑤ 交差点や曲がり角等で誘導を行う場合は、一般車両の内輪差等を考慮した安全な位置で行う。

問題 1 5 次は、警察機関等への連絡についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 緊急事案発生時の連絡の適否は、事件や事故等の推移に大きな影響を与える。
- ② 緊急の事態であっても冷静さを失わず、拙速より巧遅を心がけた通報が行えるようにする。
- ③ 警備員は業務の性質上、周囲の人たちから積極的かつ迅速な連絡が行えることが期待されている。
- ④ 警察機関に連絡する事案には、交通事故の発生時やけんかを目撃したときなどがある。
- ⑤ 通報した場合に警察官等から質問される事項について、正確に回答できるように日頃から訓練しておく。

問題 1 6 次は、救急蘇生法の意義についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備業務は、事件や事故から人の生命、身体、財産を守るという性格を有することから、一般の人に比べて事故等による負傷者に出くわすことも少なくない。
- ② 急変した負傷者を救命し、社会復帰させるために必要な一連の行いを「救命の連鎖」という。
- ③ 応急手当は、反応がある負傷者に対して、一般の人がその悪化を回避することを目的に行う治療行為をいう。
- ④ 一次救命措置は、A E Dや感染防護具などの器具を用いて行うが、特別な資格がなくても誰でも行うことができる。
- ⑤ 反応がない負傷者については、一次救命処置を行う。

問題 1 7 次は、護身術についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 護身術は、相手を制圧・撃退することだけではない。
- ② 護身術は、反復訓練を行う必要はない。
- ③ 危険な状況から、いち早く遠ざかり、身の安全を確保することも大切である。
- ④ 自分の身は、自分で守れるようにしておく。
- ⑤ 危険が差し迫ったときには、具体的な技術にとらわれず、常に広い意味での護身術が行えるように心がける。

問題 1 8 次は、体さばき（相手が右手で胸部を突いてくるのを想定）についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 体さばきの一つに後ろさばきがある。
- ② 後ろさばきは、相手の動きに対し反応が遅れたときや、相手との距離が近い、又は後方に下がる場所があるときに行う体さばきである。
- ③ 後ろさばきは、正面の構えから、右足を左斜め後方に引くと同時に、左足をやや引き付けるようにして体を右に開く。
- ④ 上記③に次いで、体を右に開くとともに、左手刀で相手の前腕を打ち払い、突きの軌道を逸らし、身構える。
- ⑤ 上記④の身構えたときの左手は、顔の高さ、右手は自然に垂らす。

問題 19 次は、消火器の構造、機能及び使用方法についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 消火器の構造としては、本体容器の外側又は内側に加圧用ガス容器を取り付けた加圧式消火器と、消火器本体に消火剤とともに畜圧した窒素ガスなどを封入した畜圧式消火器がある。
- ② 屋外で使用する場合は、風による消火剤の飛散を防止するため風上から放射する。
- ③ 消火器は、消火設備の中でも最も普及している初期消火用の代表的な器具である。
- ④ 消火器の使用方法は、(1) 安全栓を抜く (2) レバーを握る (3) ノズルを持ち、火元に向けるの順で行う。
- ⑤ 消火器の種類には、粉末消火器、強化液消火器などがある。

問題 20 次は、現場保存における警察官等への引継ぎに必要な項目を挙げたが、誤りはどれか。

- ① 犯罪及び事故発生現場の所在地、責任者名及び電話番号
- ② 現場保存の措置を行った時間、範囲とその方法
- ③ 事件に関連すると思われる情報
- ④ 発見の時間及び内容
- ⑤ 現場状況から推測される犯人像

